

世界遺産アカデミー認定講師 File No.8

このコーナーでは、マイスターの称号を得て全国で積極的に啓蒙活動をされている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第8回は世界遺産スペシャリストとしても旅行業界でご活躍されている、株式会社TBワールドパッケージングの石井直美(いしいなおみ)さんです。

——自分に確信を持てるものの 必要性を感じた時、 世界遺産検定に出会いました。

学生時代は海外に出たい気持ちが強く、大学4年生の時に1年間、カルフォルニア大学サンディエゴ校に交換留学をしました。卒業後はアメリカに住みたいとも考えていましたが、留学中に湾岸戦争が勃発。憧れていたアメリカの別の面を知ることになり、より広い世界を意識するきっかけになりました。

帰国後、旅行会社に就職しました。JTBグループ内の、エジプトやトルコといったいわゆるSIT(Special Interest Tour: 独自性の強いテーマや目

的を持った内容の旅行) 地域の商品を取り扱っていました。私が入社した年に日本は世界遺産条約を締結し、その翌年には国内初の世界遺産が登録されています。今でこそ世界遺産は立派な旅のテーマのひとつとなりましたが、私達の会社も、1996年からパンフレットで世界遺産の紹介をしています。仕事を通して、多くの世界遺産を知り、訪れることができたのも幸いなことでした。中でも、世界遺産条約誕生のきっかけとなったエジプトのアブシンベル大神殿は、今でも特別な存在です。その後、結婚や出産を経て、私自身の人生のステージも移行していきました。2003年に産休から復帰したのですが、翌2004年にはグループ内の関連会社が統合され、新

しい会社で最初に配属されたのは、ヨーロッパ企画チームでした。会社再編の混乱もありましたし、育児時短のため思うように働けない時期が3年ほど続いたのですが、2007年に経験を活かしつつも無理なく仕事を続けられるように部署異動し、ここでは、パンフレット制作の統括業務等を担当しました。仕事は充実していた一方で、担当方面を持たない寂しさから、何か自分に確信を持てるものの必要性を感じるようになりました。そんな時に世界遺産検定のことを業界誌や新聞の記事で知って、これまでの自分に対する卒業試験だと思い、受験を決めたのです。

検定の勉強を始めて、仕事で得た知識では歯が立たず、世界遺産の奥深さを思い知りました。私が受

検した時は、ブロンズ、シルバーの時代でしたので全範囲からの出題でしたし、当時、既に登録物件数は800を超えていました。勉強方法としては、せかけん公式HPに掲載されていた「世界遺産クイズ」を全てファイルにまとめ直してひたすら解いていました。時間があればテキストを通読し、またノートを作成し、自分の言葉で書くことによって知識の定着を図りました。ゴールド受験の際、かつて訪問したことのあるヨーロッパと東アジアを選択受験したのですが、実は東アジアに落ちてしまいました。幸いヨーロッパでゴールドに合格し、「世界遺産スペシャリスト」にも認定されました。せっかくだから行けるところまで行こうと思い、1級、マイスター、

WHA認定講師に至るまで、勉強を続けました。1級の壁が最も厚く、逆にマイスターではすることがなくて困りましたが、もともと書くことを勉強に組み込んでいたのは役立ったと思います。

——世界遺産検定は、 一歩抜きん出るための資格。

WHA認定講師となる以前に、社内でお客様向けの旅行説明会を担当したことがありましたので、決められた時間内で説明するという経験があったのですが、認定講師のデビューは、とても緊張しました。目黒先生が担当されていた玉川大学の5回連続の生

涯学習講座のうち、第3回目を代替講師として担当することになったのです。受験以上の勉強を必要としましたし、台本を書いて本番に臨みました。それでも最初の1コマ目は時間内に終わらず、2コマ目で時間調整して終了させたという感じでしたし、生涯学習ですから受講生は大先輩の方々ばかりで、重圧がありました。その後、流通経済大学からの3級ガイダンスの依頼を引き受けたりして、次第に流れを掴めるようになりました。大学生対象のガイダンスでは、仕事と育児に追われる日常生活の中で、私自身がどういった勉強をしてきたかなどを具体的に説明しています。また、世界遺産検定は、仕事に直接活かされるというよりも、一生涯、何かに興味を

もち、視野を拡げ、自分の引き出しを増やしていくための資格で、特に観光系の仕事では一歩抜きん出るための資格だとお話ししています。

他の認定講師の方々と比べて私は若輩者で人生経験も未熟ですが、講師としての自分の存在価値は、旅行業界で現役で働いていることや、女性として仕事と育児の両立を図っていることではないかと思えます。私の経験が、将来を見つめている学生達の何らかの指標となってくれば、と願っています。仕事でも社員の育成に力を入れており、今の自分のテーマが「育てる」ことですから、ガイダンスに参

加した学生達が旅行業界で活躍したり、検定マイスターになってくれば、嬉しい限りです。また、いつか子どもにも教えたいと思っています。小学校4年生の息子は、私が認定講師をしていることを知っていて、既に興味を持っているようで、最近勉強を始めました。小学校の修学旅行先が日光だったりと、小さいうちから世界遺産を訪れる機会にも恵まれています。大人よりも子どもに教える方が難しいかもしれませんが、とても楽しそうです。

最後に一言。認定講師は「新たな勉強のスタート」です！



アブ・シンベル大神殿の圧倒的存在感を語られる石井さん